

ネギ後	商品名	目的	使用袋数	N / kg	備考	参考価格	使用金額											
緑肥	鶏糞20kg	緑肥の肥料と残渣分解		5														
	堆肥(緑肥、鶏糞、馬糞)従来通りの量	緑肥、 鶏糞を少し多めに使用 、馬糞 分解																
緑肥あと	IMP	緑肥分解と微生物施用 腐植の量増加	4	0.8	だけど1.6実質0.8で計算 5か月放出のイメージ	2200	8800											
	苦土石灰	pH調整時 推奨はヒューライム	5		ヒューライムは腐植酸を含む	1430	7150											
春・秋ネギ			使用袋数	N/kg	備考	参考価格	使用金額	夏・冬ネギ				使用袋数	N/kg	備考	参考金額税込み	使用金額		
元肥	ST01-897	有機質5割以上で微生物を働かしながら、 うま味を重視する	4	6.4		4675	18700	元肥	トモエ特8号	カルシウム 硫酸 その他微量要素を複円化で吸収を効率よく	5	6			3980	19800		
追肥1	ST01-897		1	1.4		4675	4675	追肥1	トモエ特8号		2	2.4			3980	7960		
追肥1	トリプルアッシュ		1	0.8	だけど1.6実質0.8で計算 2か月放出のイメージ	5280	5280	追肥1	トリプルアッシュ		0.5	0.4	だけど0.8実質0.4 2か月放出のイメ		5280	2640		
追肥2	ST01-897		1	1.4		4675	4675	追肥2	トモエ特8号		2	2.4			3980	7960		
追肥2	IMP	病気対策重視で追肥を使用する	2	0.4	0.88だが実質半分で計算 だけど1.6実質0.8で計算	2200	4400	追肥2	IMP		3	0.66	1.32だが実質半々 2か月放出のイメ		2200	6600		
追肥2	トリプルアッシュ		1	0.8	2か月放出のイメージ	5280	5280	追肥2	トリプルアッシュ		0.5	0.4	2か月放出のイメ		5280	2640		
追肥3	ST01-897		1	1.4		4675	4675	追肥3	トモエ特8号		2	2.4				0		
追肥3	IMP		2	0.4	0.88だが実質半分で計算	2200	4400									0		
液肥	設計条件として使用水量を一律100lとして防除【葉面散布】に組み込むとする。定植後栽培期間をおよそ6か月間とする。	商品説明	倍率	回数	使用原液量 原液使用料ml又は、g	参考金額1mlあたり	使用金額	備考										
	リーフェナジー【持ち回し葉剤】	脂肪酸		12	1500	9.35	14025	原液の場合は反当り100ml 夏と冬は150mlへ増【約5か月】										
	ラプラス	核酸 LPS ALA アミノ酸【微量】		12	1800	3.83	6894	原液150mlで計算										
	スペースエージ	クロレラエキス、モリブデン、ホウ素、核酸、亜リン酸	1000	8	1200	4.385	5262	6月から9月12月から3月 8か月										
	PKマギー	リン酸 苦土 ホウ素 リン酸供給の軸にする。	500	12	2400	0.39875	957	必ず葉面散布には、組み込む										
	ギガフォル	アミノ酸【グリシンベタイン プロリン		6	600	6.6	3960	冬場、夏場に利用										
定植時	EB-a細粒	定植前 固粒化		1	4000		2.86	11440										
育苗中	設計条件として使用水量を一律20lとして防除【葉面散布】に組み込むとする。育苗を3か月ほどで計算とする。	核酸 LPS ALA アミノ酸【微量】		1000	4	20	3.83	76.6	播種時									
<p>現状窒素使用 12.81kg 使用 一般的なネギの栽培では18kg以上使用することが多い。現状の売り手の評価が上がっているポイントは、今使用している肥料+堆肥+緑肥などからくる窒素もあり、未消化窒素も少なかったなども影響する。収量や品質を担ううえで窒素はもう少し使用していく。今回の施肥の基準で肥料設計としては従来通りの窒素量を基準に組みさせていただきました。ただし、緑肥あとに鶏糞の量を増やす。ことで緑肥の分解を早める。液肥の使用では、アミノ酸なども利用することで、うまみも引き上げていく。</p>																		